



2022年度

回復期から生活期までの

リハビリテーションの効果に関する実態調査



- 診療・介護報酬の改定に向け回復期リハビリテーション病棟退棟後の生活期リハビリテーションの成果を示すため平成28年度より調査を開始した
- 限りある医療・福祉資源の中で、より効果的な質の高い生活期リハビリテーションのあり方を検討する
- 生活期リハビリテーションの効果に影響を及ぼす要因を分析し、生活期リハビリテーションの質の向上につなげることを目的とする



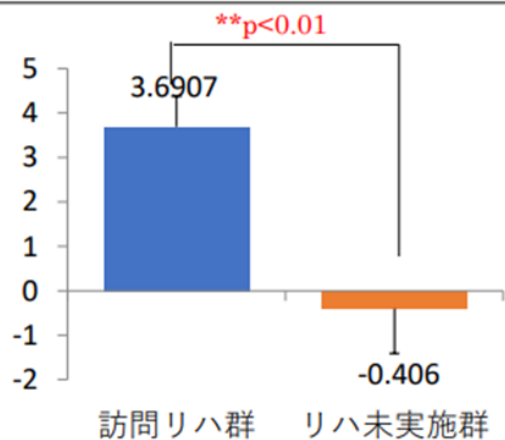
Slide-No.2

回復期リハ病棟退棟後の外来リハ、訪問リハ、通所リハはADLを改善させる。

訪問リハ FIM

	訪問リハ群 (97例)	リハ未実施 群 (91例)
退棟後1か月 FIM	93.6 ± 24.8	96.3 ± 33.2
退棟後3か月 FIM	97.2 ± 25.4	95.9 ± 35.4

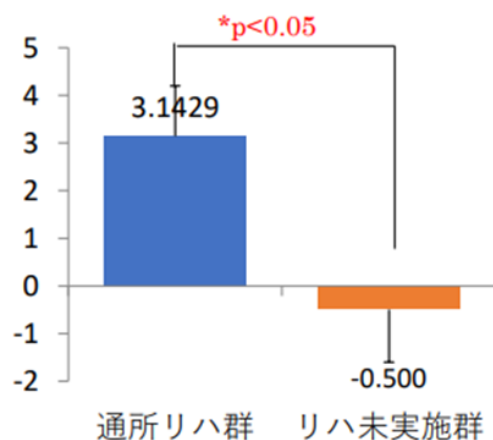
退棟後3か月FIM - 退棟後1か月FIM



通所リハ Barthel Index

	通所リハ群 (64例)	リハ未実施 群 (40例)
退棟後1か 月BI	72.2 ± 27.2	64.0 ± 36.0
退棟後3か 月BI	75.3 ± 27.7	63.5 ± 35.9

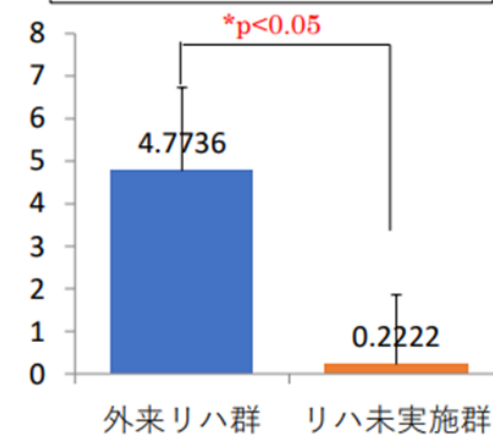
退棟後3か月BI - 退棟後1か月BI



外来リハ FIM

	外来リハ群 (53例)	リハ未実施 群 (90例)
退棟時FIM	107.9 ± 28.2	96.9 ± 31.6
退棟後3か 月FIM	112.7 ± 24.5	97.1 ± 34.6

退棟後3か月FIM - 退棟時FIM



■ 調査方法

回復期リハ病棟を有する会員施設に
令和3年8月1日～8月31日までに回復期リハ病棟を退棟した
患者の情報等について、Eメールによる調査票配布により
実施、回収を行なった

■ 主な調査項目

回復期リハ病棟退棟後～6か月の「BI」 「FIM」 「FAI」 「LSA」
退棟後の生活期リハサービス実施状況

■ 回答数

32病院（67病棟） 1,165 名

■ 有効回答数 *

6か月後「BI」データ 178 名

6か月後「FIM」データ 207 名

6か月後「FAI」データ 203 名

6か月後「LSA」データ 222 名

* 基本情報、6か月後までの各アウトカム情報が
すべて入力されているものについて集計を実施した



BI

Barthel Index

「食事」「車椅子からベッドへの移乗」「整容」「トイレ動作」「入浴」「平地歩行」「階段昇降」「更衣」「排便コントロール」「排尿コントロール」の10項目から構成。各項目を自立度に応じて15点、10点、5点、0点のいずれかで採点。満点は100点、最低点は0点で、点数が高いほど自立度が高いことを示す。



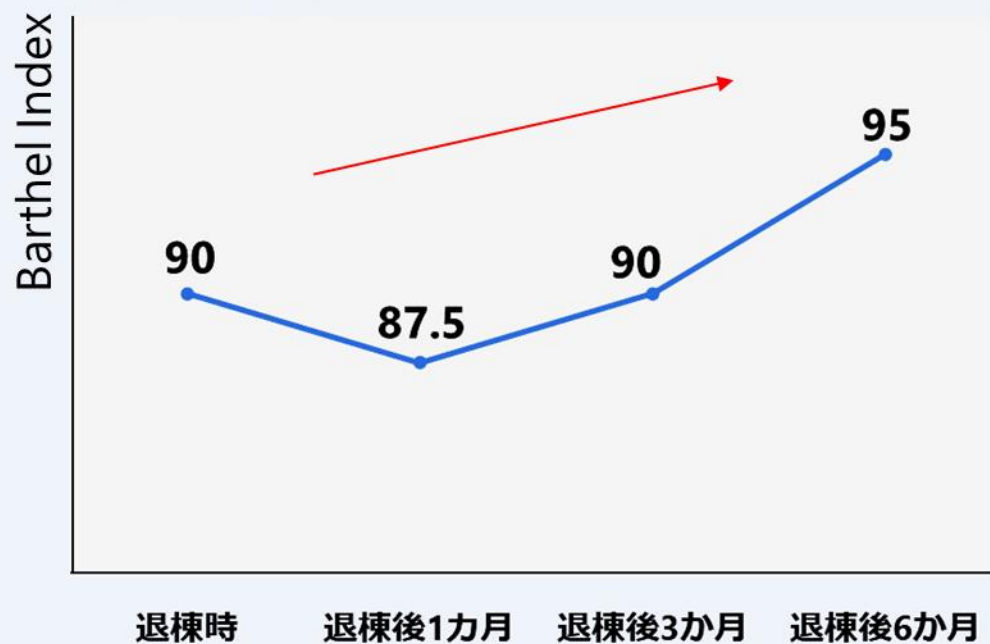
結果 | BIサンプルの背景データ (178名)

項目	リハ実施あり (n = 90)	リハ実施なし (n = 88)	P値
年齢	73.5 歳	74.5 歳	0.666
女性	51 %	48 %	0.657
原因疾患			0.121
脳血管疾患	56 %	56 %	
整形疾患	40 %	32 %	
廃用症候群	4 %	12 %	
発症～退棟まで日数	100 日	84 日	0.033
BMI値による分類			0.975
やせ (BMI < 18.5kg/m ²)	16 %	17 %	
肥満 (BMI ≥ 25kg/m ²)	18 %	18 %	

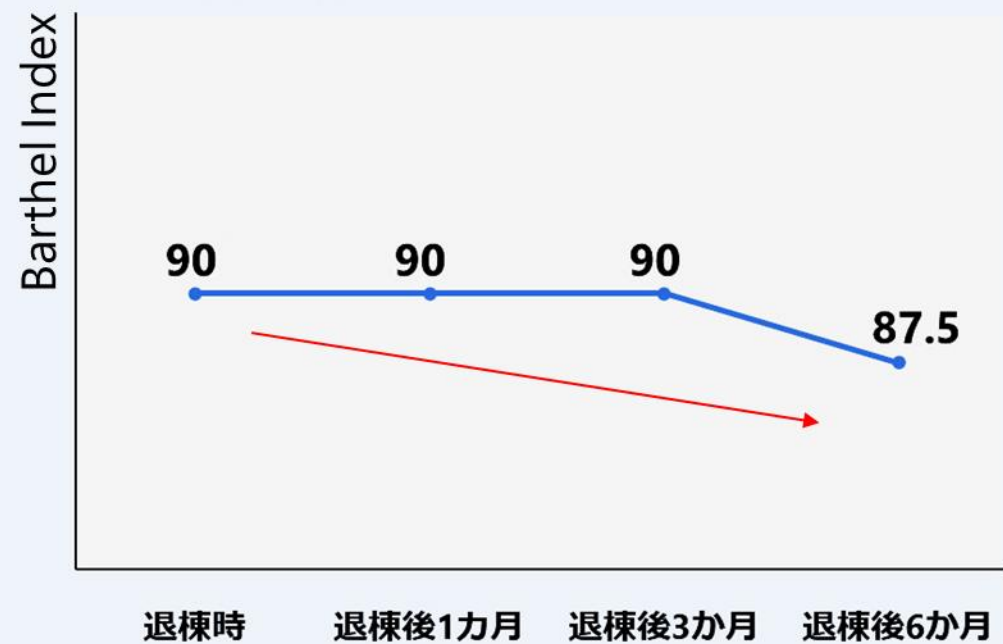
リハ実施：「外来リハ」「訪問リハ」「通所リハ」のいずれかを利用したものをありとした

- 「リハ実施あり群」 退棟後1カ月でBI低下、その後BI向上
- 「リハ実施なし群」 退棟後6か月でBI低下

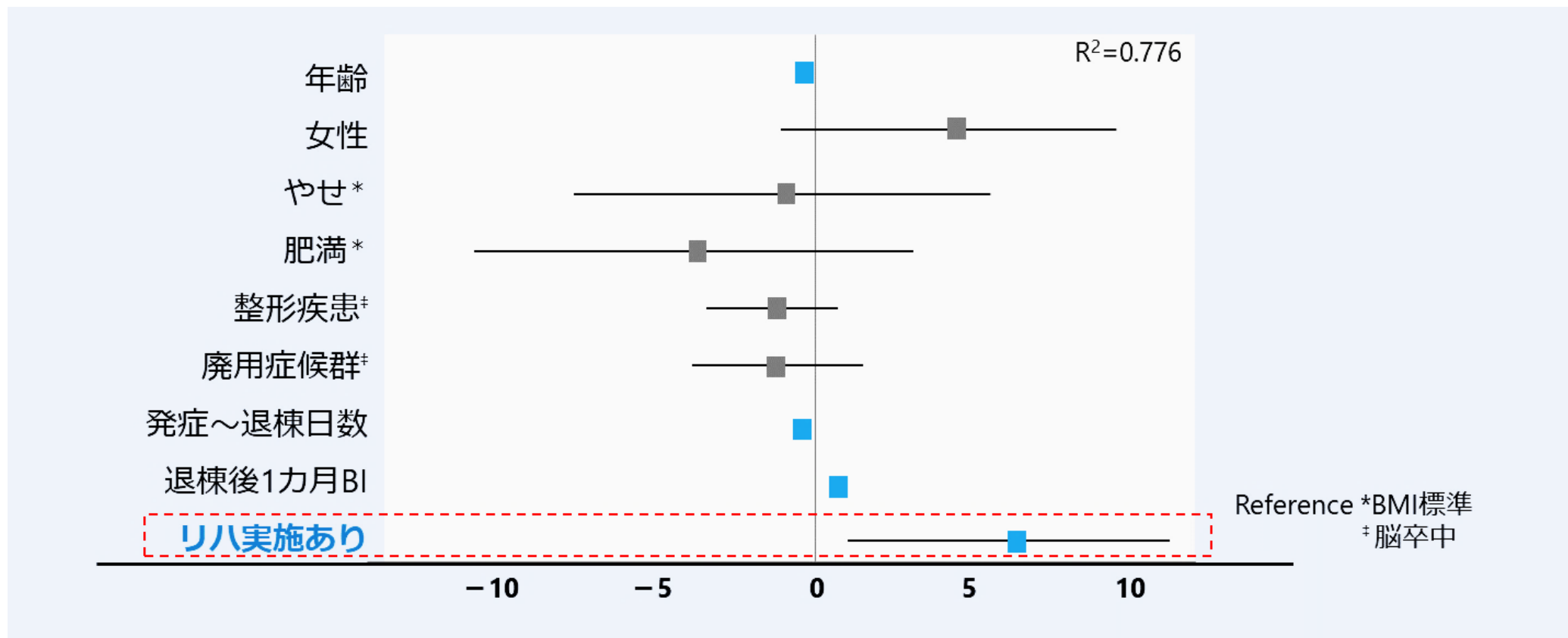
リハ実施あり



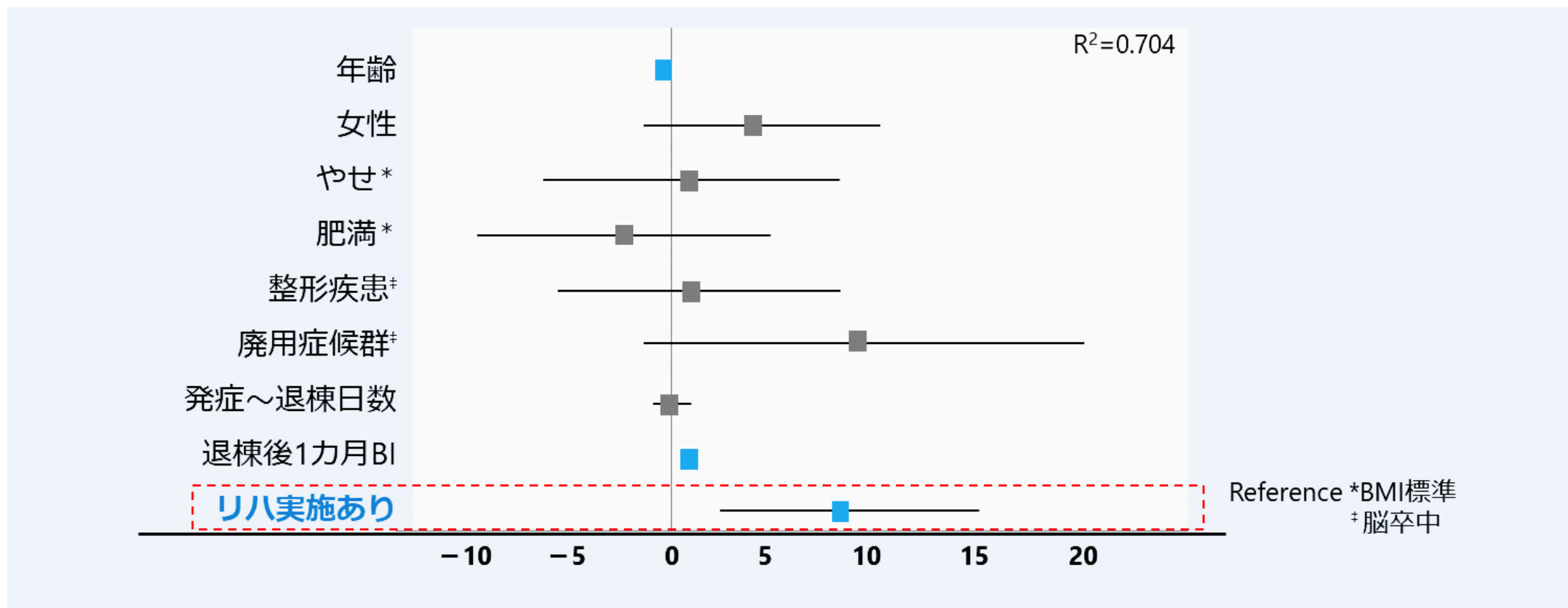
リハ実施なし



- 「退院後リハ実施あり」は「退棟後3か月BI」と独立して関連
- 他の独立した説明変数：「年齢」「発症～退棟日数」「退棟後1カ月BI」



- 「退院後リハ実施あり」は「退棟後6か月BI」と独立して関連
- 他の独立した説明変数：「年齢」「退棟後1カ月BI」





FIM

Functional Independence Measure

自宅や病棟などでの「しているADL」を評価。

実際の動作に関する13の項目（運動項目）、認知面を評価する5つの項目（認知項目）が含まれる。

満点は126点、最低点は18点で、点数が高いほど自立度が高いことを示す。

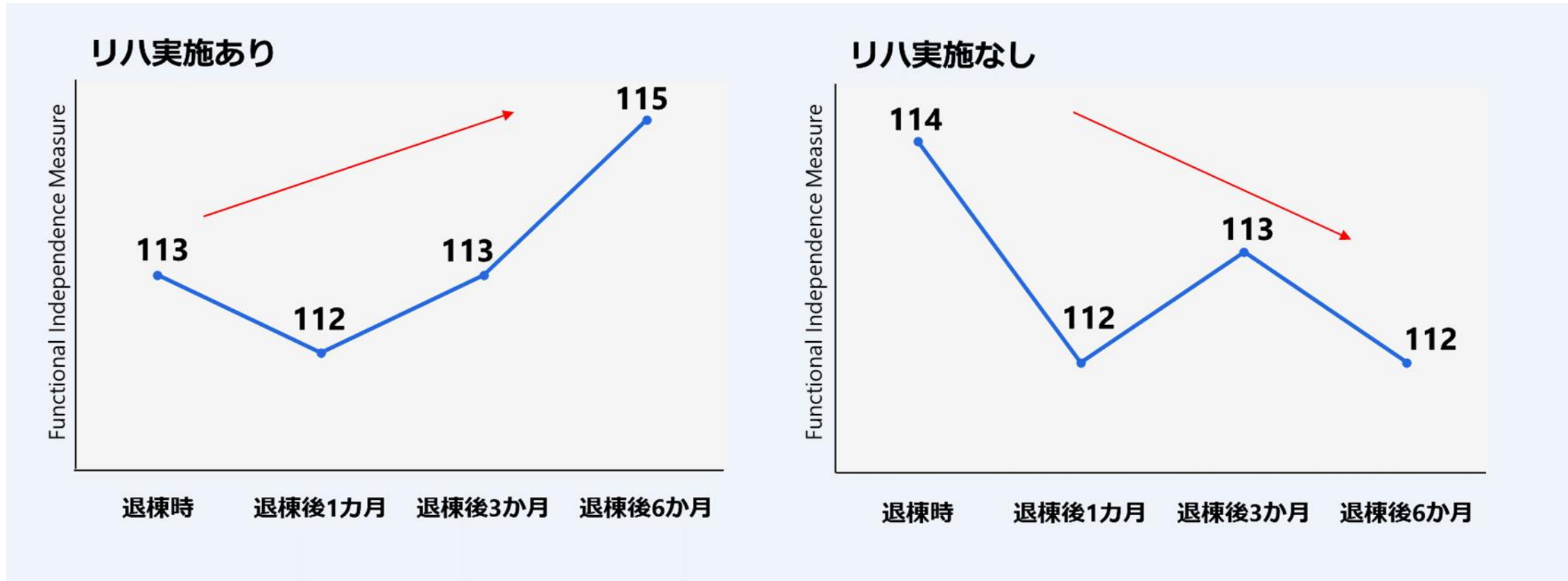


結果 | FIMサンプルの背景データ (207名)

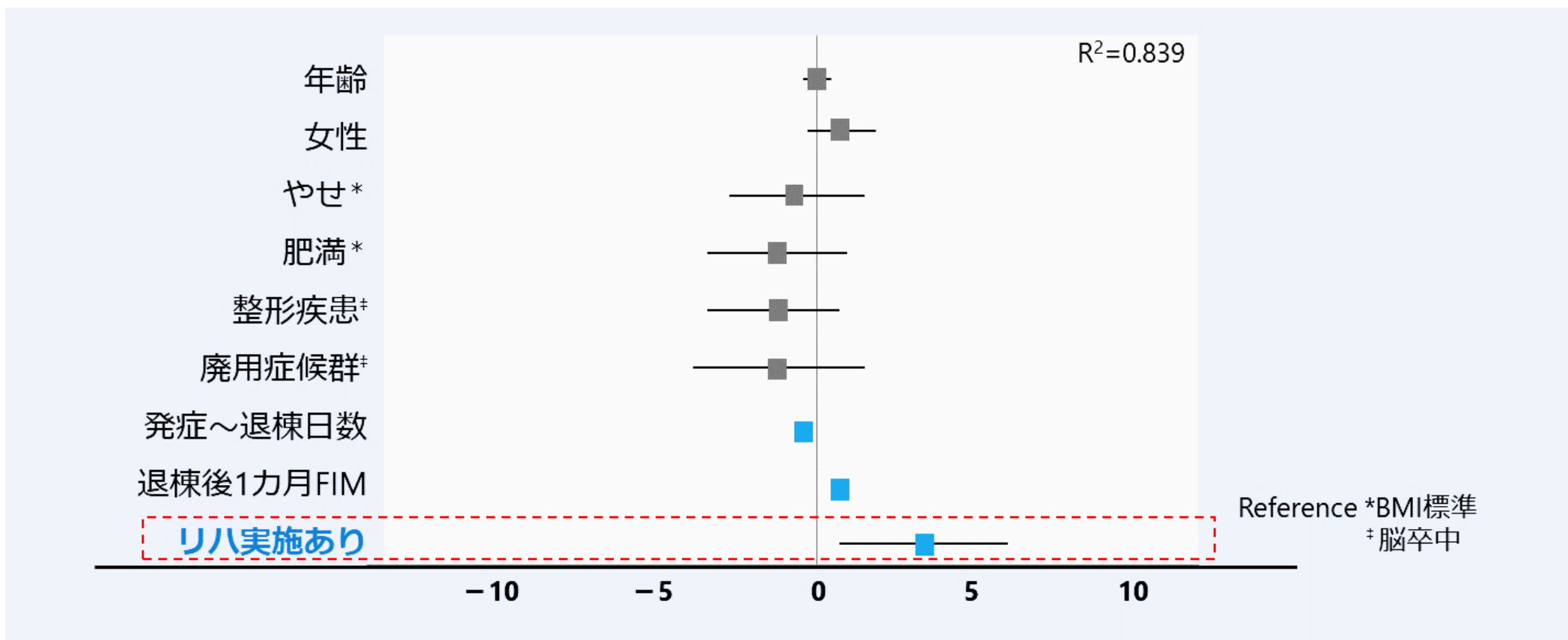
項目	リハ実施あり (n = 119)	リハ実施なし (n = 88)	P値
年齢	73 歳	76 歳	0.119
女性	46 %	53 %	0.327
原因疾患			0.018
脳血管疾患	58 %	44 %	
整形疾患	37 %	40 %	
廃用症候群	5 %	16 %	
発症～退棟まで日数	95 日	84 日	0.021
BMI値による分類			0.768
やせ (BMI < 18.5kg/m ²)	15 %	15 %	
肥満 (BMI ≥ 25kg/m ²)	14 %	18 %	

リハ実施：「外来リハ」「訪問リハ」「通所リハ」のいずれかを利用したものをありとした

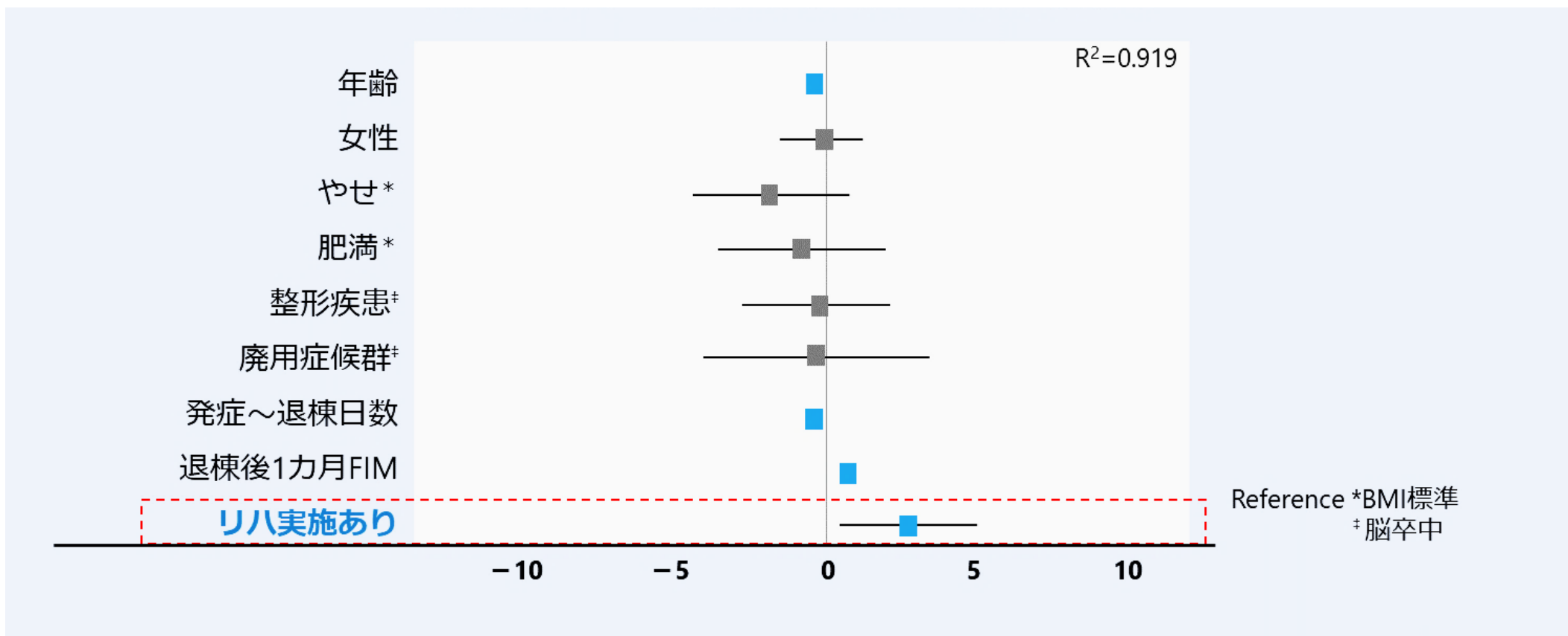
- 「リハ実施あり群」 退棟後1カ月でFIM低下、その後FIM向上
- 「リハ実施なし群」 FIM低下傾向



- 「退院後リハ実施あり」は「退棟後3か月FIM」と独立して関連
- 他の独立した説明変数：「発症～退棟日数」「退棟後1カ月FIM」



- 「退院後リハ実施あり」は「退棟後6か月FIM」と独立して関連
- 他の独立した説明変数：「年齢」「発症～退棟日数」「退棟後1カ月FIM」





FAI

Frenchay Activities Index

住み慣れた地域で生活できている高齢者のIADLの評価。

各項目0～3点満点で構成。

満点は45点（活動的）、最低点は0点（非活動的）で、点数が高いほど活動的であることを示す。

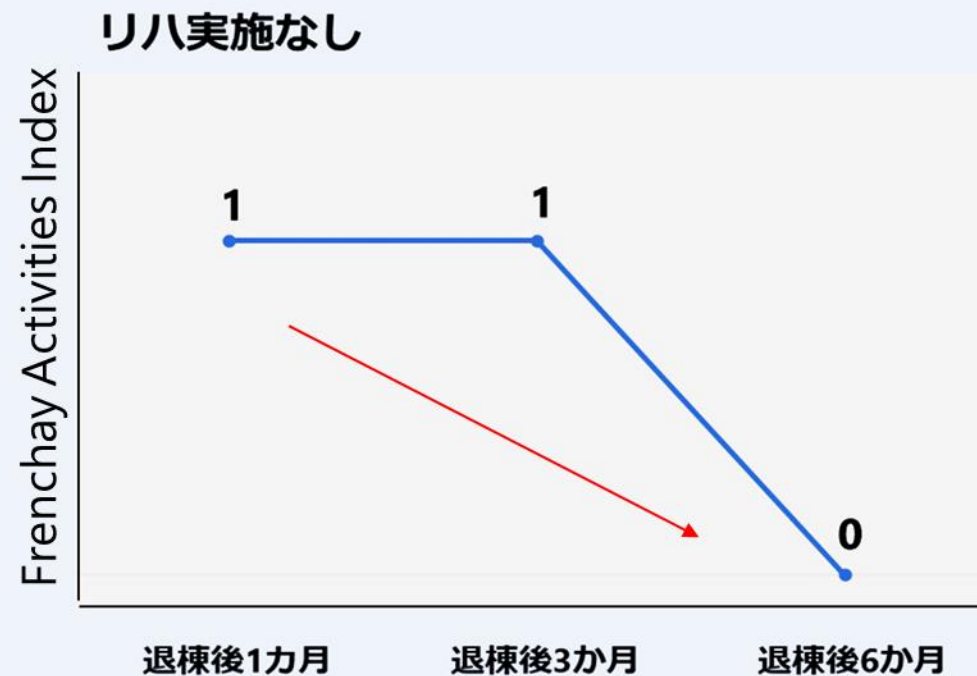
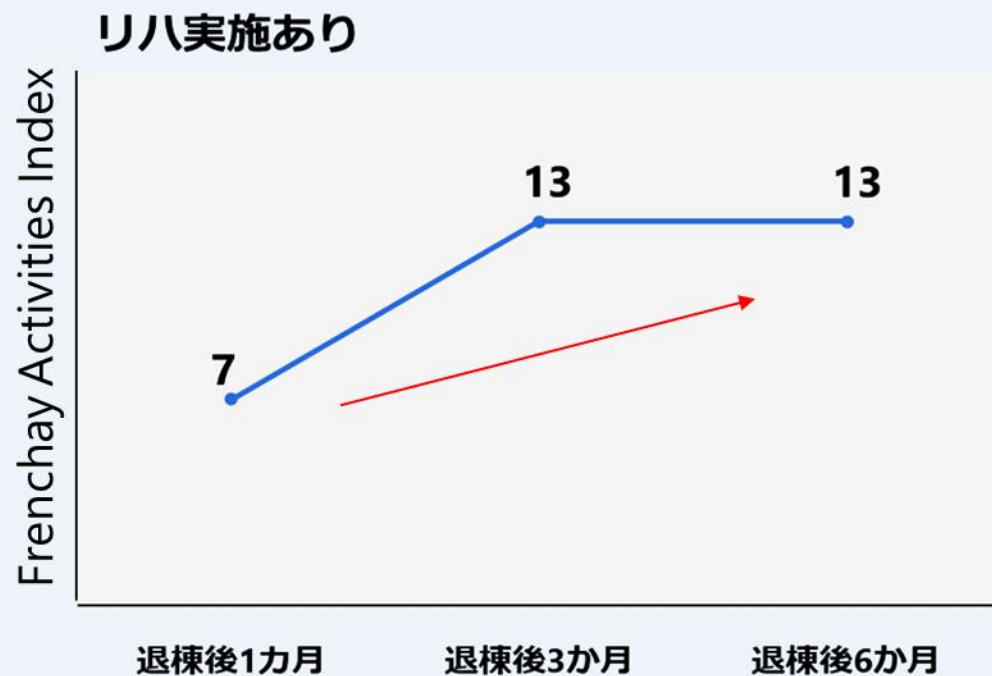


結果 | FAIサンプルの背景データ (203名)

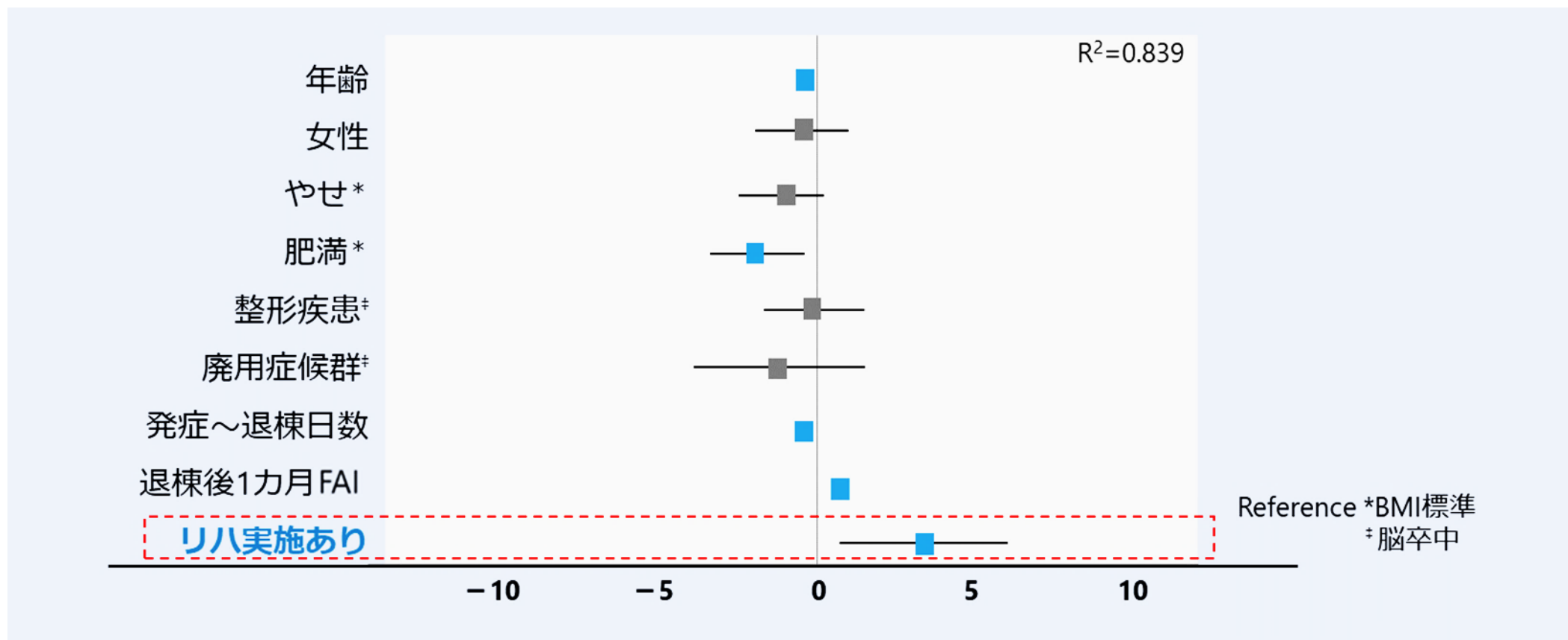
項目	リハ実施あり (n = 106)	リハ実施なし (n = 97)	P値
年齢	74 歳	79 歳	0.151
女性	51 %	51 %	1.000
原因疾患			0.098
脳血管疾患	59 %	50 %	
整形疾患	38 %	39 %	
廃用症候群	4 %	11 %	
発症～退棟まで日数	97.5 日	89 日	0.074
BMI値による分類			0.768
やせ (BMI < 18.5kg/m ²)	18 %	25 %	
肥満 (BMI ≥ 25kg/m ²)	16 %	17 %	

リハ実施：「外来リハ」「訪問リハ」「通所リハ」のいずれかを利用したものをありとした

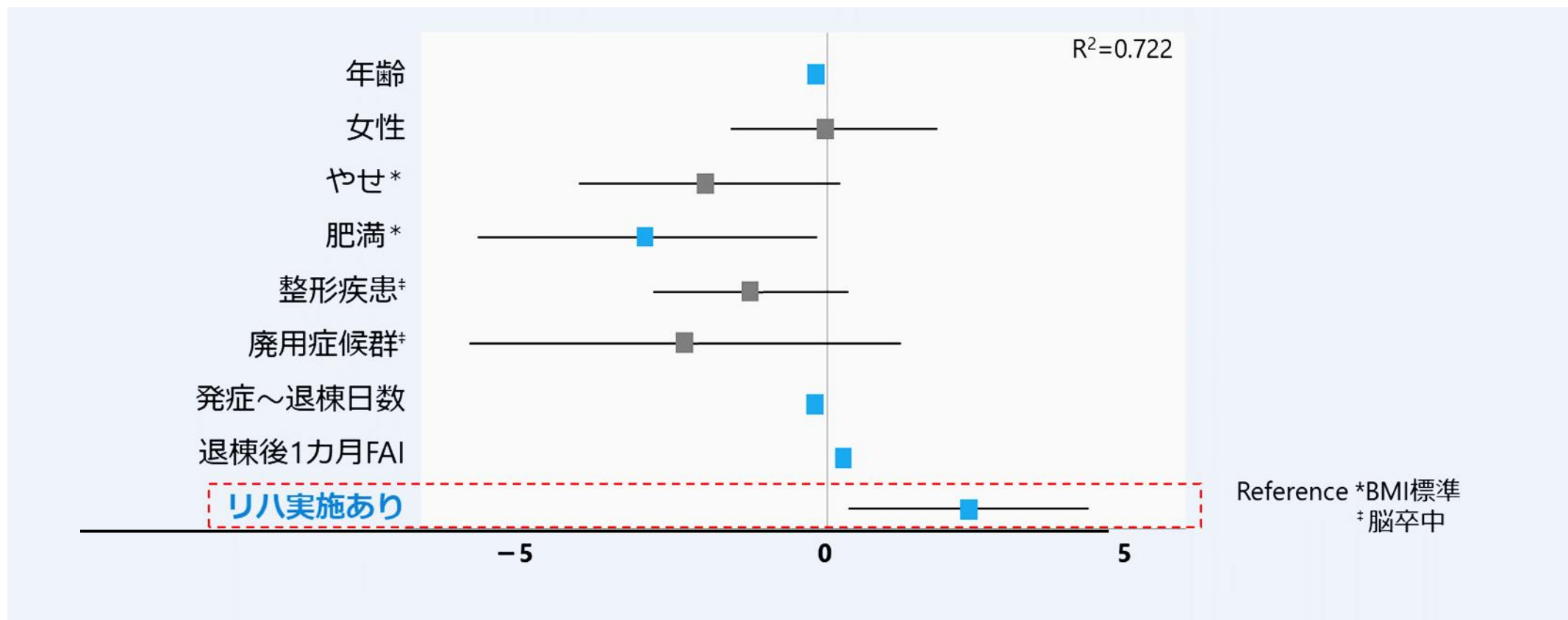
- 「リハ実施あり群」 退棟後FAIは向上傾向
- 「リハ実施なし群」 退棟後FAIは低下傾向



- 「退院後リハ実施あり」は「退棟後3か月FAI」と独立して関連
- 他の独立した説明変数：「年齢」「肥満」「発症～退棟日数」「退棟後1カ月FAI」



- 「退院後リハ実施あり」は「退棟後6か月FAI」と独立して関連
- 他の独立した説明変数：「年齢」「肥満」「発症～退棟日数」「退棟後1カ月FAI」





LSA

Life Space Assessment

活動を「生活範囲」という概念で捉え、対象者の生活範囲を居室内、敷地内、近隣、町内、町外の5段階に分類し、各範囲での移動の有無と頻度、自立度によって過去1ヵ月間の個人の活動量を評価。満点は120点、最低点は0点で、点数が高いほど生活の幅が広いことを示す。

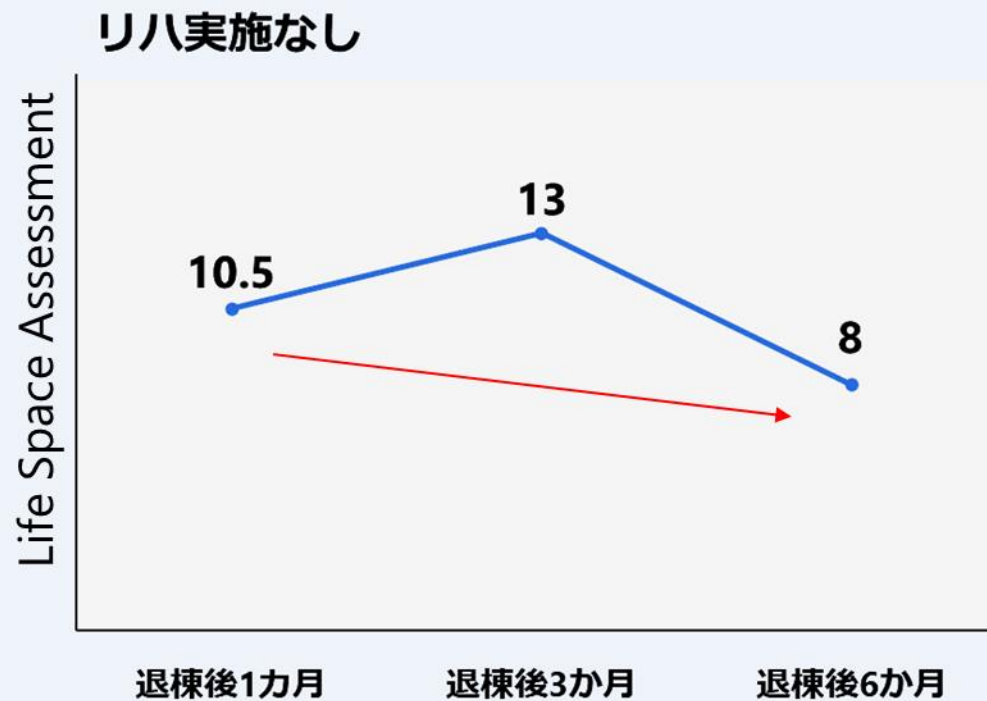
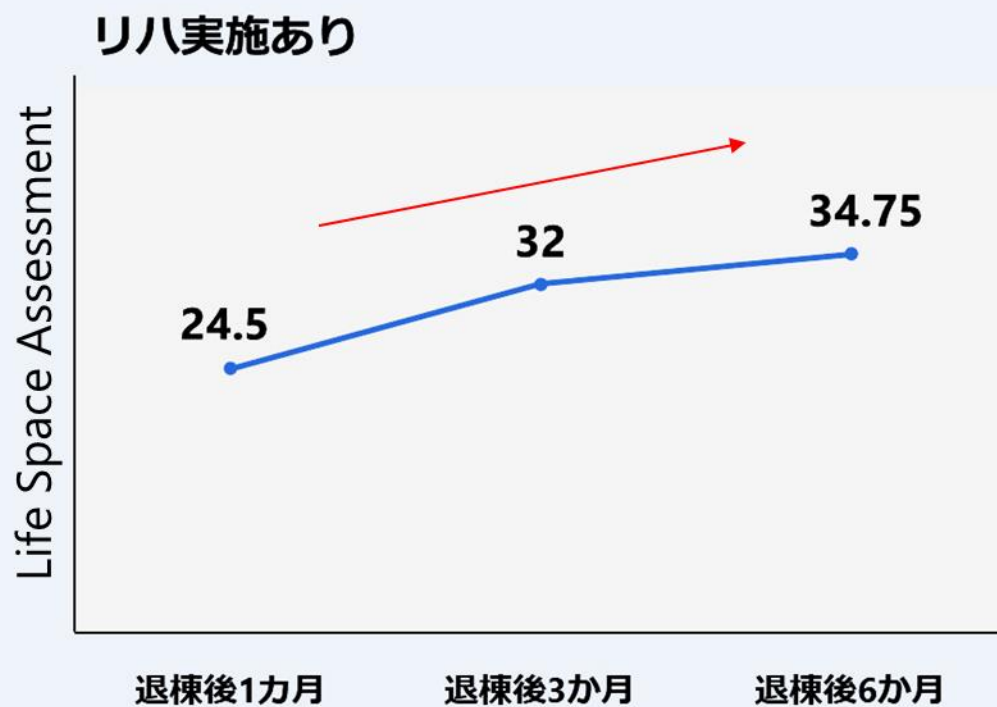


結果 | LSAサンプルの背景データ (222名)

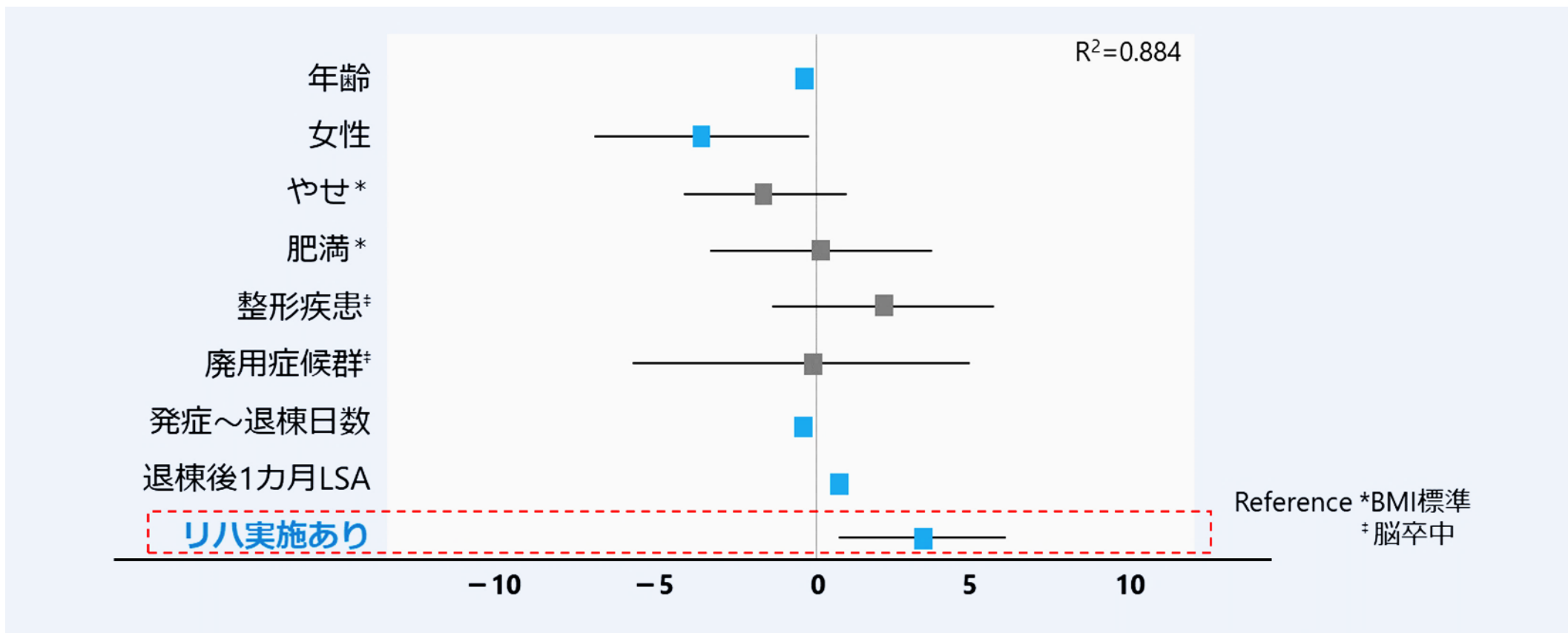
項目	リハ実施あり (n = 114)	リハ実施なし (n = 108)	P値
年齢	75 歳	79 歳	0.103
女性	47 %	55 %	0.286
原因疾患			0.047
脳血管疾患	56 %	45 %	
整形疾患	40 %	42 %	
廃用症候群	4 %	13 %	
発症～退棟まで日数	95 日	87.5 日	0.106
BMI値による分類			0.469
やせ (BMI < 18.5kg/m ²)	19 %	26 %	
肥満 (BMI ≥ 25kg/m ²)	15 %	16 %	

リハ実施：「外来リハ」「訪問リハ」「通所リハ」のいずれかを利用したものをありとした

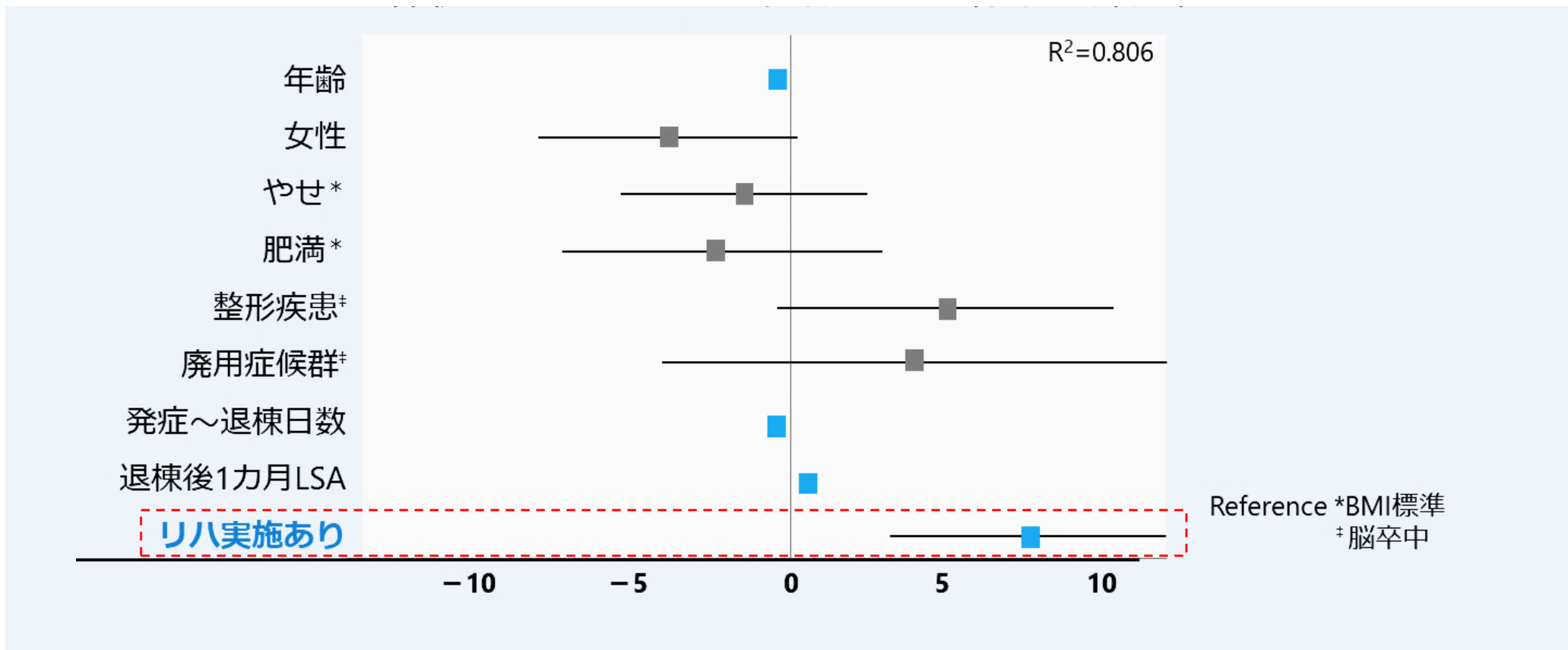
- 「リハ実施あり群」 退棟後LSAは向上傾向
- 「リハ実施なし群」 退棟後LSAは低下傾向



- 「退院後リハ実施あり」は「退棟後3か月LSA」と独立して関連
- 他の独立した説明変数：「年齢」「女性」「発症～退棟日数」「退棟後1カ月LSA」



- 「退院後リハ実施あり」は「退棟後6か月LSA」と独立して関連
- 他の独立した説明変数：「年齢」「発症～退棟日数」「退棟後1カ月LSA」



回復期リハ病棟退棟後のリハビリテーション

- ▶ 生活期の「ADL」「IADL」「活動性」に独立して関連
- ▶ 回復期リハ病棟退棟時よりも「ADL」「IADL」を向上させる可能性

調査の課題

- ▶ 有効回答数が約15%
- ▶ リハの提供量や実施内容の検討ができていない

回復期リハビリテーション病棟退棟後3か月、6か月調査

リハビリテーション



生活期における
「ADL」 「IADL」 「活動性」 向上

Check!